

【研修目的】

発達障がい等の特性を持つ児童の利用が増加していることから、発達障がい等の特性を持つ児童に対する育成支援についての基礎的知識や具体的な対応手法に関する研修を実施し、誰もが楽しめる放課後の居場所を提供できるよう職員の知識向上やスキルアップを図る。

【受講対象者】

「児童いきいき放課後事業」及び「留守家庭児童対策事業(放課後児童クラブ)」に従事する職員(約5,300名)
※うち、約800名受講

【研修概要】

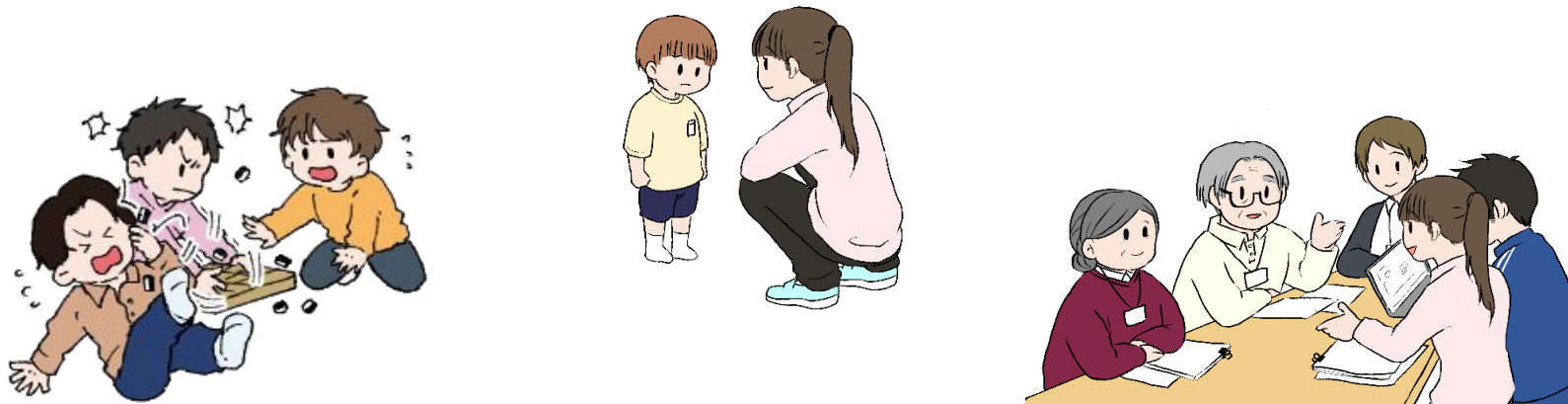
- 研修実施者:株式会社東京リーガルマインド(業務委託)
- 開催日時:令和7年2月5日(水)～3月17日(月)の間で、計20回実施(1回約40名×20回)
- 開催場所:LEC東京リーガルマインド梅田駅前本校407教室
- 講師:廣田恵美子氏・山村拓氏(放課後等デイサービス等において、発達障がい等児童の育成支援実務経験あり)

【参加者の声】

- 講師の実体験に基づく児童への対応手法や100均の商品を組み合わせた手作りグッズの紹介など、すぐに活用できる内容となっていて良かった。
- ロールプレイングは、まさに今現場で起こっている事例で大変参考になった。
- 今回の研修で学んだことは、日々の活動や支援の中で一番大切なところなので、改めて職員で共有したい。
- 他のいきいき活動室や放課後児童クラブの職員と日頃の悩みや対応手法について意見交換ができて良かった。
- 実務的で、とても分かりやすい内容だったので、来年度以降も継続して実施してほしい。

【研修内容】

- ① 基礎理解に関する講義(約30分)
- ② 演習(約60分)
 - ・現場で起こりうる3つの事例についての具体的な対応手法を各自検討し、参加者同士で意見交換
 - ・複数の参加者から発表の後、講師が適切な対応手法について解説
- ③ ロールプレイング(約60分)
 - ・講師陣が職員役と児童役に分かれて、3事例の適切・不適切な対応のロールプレイングを見本として実践
 - ・参加者同士でペアを作り、職員役と児童役を交代しながら、各自ロールプレイングを実践



【事例】 落ち着きがなく動き回る児童への対応

【小学校1年生Aさん】

活動室で自主学習をする時間を決めて、皆で宿題をすることになっている。
ただ、Aさんは、落ち着いて座って宿題をすることができず、立ち歩いでは、宿題をしている他の子どもにちょっかいを出してしまう。
職員が注意をすると、一時的に座るが、また動き出し、うろうろしてしまう。
当然、宿題も進まない。このような場合、どのように対応したらいいか。

